

2024年7月26日

三条市

独立行政法人国際協力機構

慶應義塾大学 SFC 研究所

三条市・国際協力機構・慶應義塾大学 SFC 研究所が 『地域おこしと国際協力の研究開発と推進に関する連携協定』を締結

—全国で初めて「JICA 地域おこし研究員」を推進し、
地域おこしと国際協力の相乗効果のある実学の挑戦を応援します—

三条市（市長：滝沢亮）、独立行政法人国際協力機構（理事長：田中明彦 以下、JICA）、慶應義塾大学 SFC 研究所（所長：飯盛義徳 以下、SFC 研究所）は、2024年8月1日、『地域おこしと国際協力の研究開発と推進に関する連携協定』を締結します。また、3者による連携協定プログラムの第一弾として「三条市 JICA 地域おこし研究員プログラム」を募集します。

つきましては、2024年8月1日、三条市にて、3者による本連携協定の締結式を行います。また、8月26日、活動に興味がある方への『「地域おこし研究員」および「JICA 地域おこし研究員」説明会』を東京都内（JICA 施設（東京都千代田区大手町）を予定）とオンラインにて開催します。

1. 協定の概要

（目的）

本協定は、三条市と慶應義塾大学による「地方創生に関する連携協力協定（2017（平成29）年8月9日）」の趣旨と、JICA のビジョンに基づき、三条市と JICA、ならびに SFC 研究所に設置する社会イノベーション・ラボ（代表：玉村雅敏 慶應義塾大学総合政策学部 教授）が相互に協力することで、「JICA 地域おこし研究員プログラム」などの地域おこしと国際協力の相乗効果のあるプログラム（以下、本プログラム）を開発・推進すること、ならびに三条市の地域活性化及び定住・定着を促進することを目的とします。

（連携協力事項）

この目的を達成するために、次の事項について連携し、協力します。

- （1）本プログラムの研究開発に関すること。
- （2）地域おこし、国際協力、社会イノベーションを担う人材育成や研修・訓練に関すること。
- （3）本プログラムに関連する情報発信や人材等の募集活動に関すること。
- （4）本プログラムの人材による地域おこしや国際協力の推進と支援に関すること。
- （5）三条市の地域おこし協力隊の経験者が JICA 海外協力隊の活動をする事、
また、JICA 海外協力隊の経験者が三条市の地域おこし協力隊の活動をする事。
- （6）三条市の地域資源を活用した地域活性化を図るとともに、三条市への定住・定着の促進に関する事。
- （7）その他、本協定の目的を達成するために必要な事項に関する事。

2. 連携協定の締結式

日時： 2024年8月1日（木）11:00～11:30

※協定式の後、報道機関に対する質疑応答を行います。

場所： 三条市役所 三条庁舎 3階 第一会議室（新潟県三条市旭町二丁目3番1号）

出席者（予定）：
三条市 滝沢亮（三条市長）
JICA 井倉義伸（独立行政法人国際協力機構 理事）
SFC 研究所 玉村雅敏（慶應義塾大学総合政策学部 教授）

3. 「地域おこし研究員」および「JICA 地域おこし研究員」説明会

日 時： 2024年8月26日（月）18:00～20:30（予定）（開場・受付 17:30～）

場 所： JICA 施設を予定（東京都千代田区大手町 1-4-1 竹橋合同ビル 8 階「JICA 多目的室」）

オンライン（zoom） ※入館方法、接続方法等は参加申込者にメールでお知らせします。

プログラム（予定）：

- ・慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科「社会イノベータコース」について
- ・「地域おこし研究員」の制度・任用について
- ・地域おこし研究員による実践活動・研究内容の紹介
（森下祐樹（壱岐市・地域おこし研究員）、田中力（大崎町・地域おこし研究員）など）
- ・地域おこし研究員と JICA 連携のプログラムについて
- ・JICA 海外協力隊について
- ・地域おこし研究員・担当教員、JICA 関係者等との個別相談 など

詳細・参加申込： 地域おこし研究員 Web サイト <https://si.sfc.keio.ac.jp/si-researcher/news/103/>

【参考 1：三条市について】

新潟県三条市は金属加工業を中心とした「ものづくりのまち」で、隣接する燕市とともに「燕三条」と呼ばれております。世界中で愛用されているネイルケア用品や国の指定伝統工芸品の包丁などがあります。2021 年に開催した、工場を体験する展覧会「Tsubame-Sanjo Factory Museum」は、世界三大デザイン賞の一つとされる『Red Dot Design Award』ブランド&コミュニケーションデザイン部門でグランプリに選ばれました。

また、国内有数のアウトドアメーカー集積地でもあり、豊かな自然に恵まれてアウトドアを満喫できる絶好の環境があるなどのことから、昨年度、「アウトドアのまち三条」宣言をしました。昨年度の三条市ふるさと納税寄付額アウトドア部門は全体の約 4 割総額約 44 億円中、アウトドア部門は約 17 億円で、全国を対象としたふるさと納税返礼品ランキングのアウトドアなどの部門で 30 位以内のアイテムの約半数が市内の商品となっています。

そのほかにも、幻の西洋梨ル・レクチエやシャインマスカットを始めとした豊かな自然が育む高品質な農産物も魅力です。

【参考 2：国際協力機構について】

独立行政法人国際協力機構（JICA／ジャイカ）は、日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。開発途上地域等の経済及び社会の開発若しくは復興又は経済の安定に寄与することを通じて、国際協力の促進並びに我が国及び国際経済社会の健全な発展に資することを目的としています。開発途上国が抱えるさまざまな課題解決に向け、技術協力、有償資金協力、無償資金協力という 3 つの援助手法を一元的に手がけることで、より速く、より効率的に効果の高い援助を実施します。

また、JICA ボランティア派遣事業は、国際協力の志を持った方々を開発途上国に JICA 海外協力隊として派遣し、現地の人々とともに生活し、異なる文化・習慣に溶け込みながら、草の根レベルで途上国が抱える課題の解決に貢献する事業です。草の根レベルであっても、その活動は途上国の政府や政府機関あるいは公益性を追求する非政府機関の活動となる点が特徴です。開発途上国からの要請（ニーズ）に基づき、それに見合った技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む方を募集し、選考、訓練を経て派遣します。

ボランティア派遣事業のほかにも、JICA は三条市の企業と協力し、ベトナム国バリア・ブンタウ省において、金属関連裾野産業の振興を図る取組みを実施しています。

燕三条地域で長年に亘って蓄積されてきた金属加工技術や生産技術など「モノづくり」の技術が JICA 事業の中でも活かされています。

（参考：燕三条の「モノづくり」をベトナムで！金物より強い絆で…。

https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/information/topics/2024/1541135_52753.html

【参考3：慶應義塾大学 SFC 研究所について】

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）は、慶應義塾が創立（1858年）以来、培ってきた様々な理念や体制、社会ネットワークを基盤に1990年に開設されました。その後、約35年にわたり、慶應義塾の根幹の1つである実学を推進する「未来を創る大学」として、学問を超領域に捉え、未来を切り拓く「問題発見・解決」を中軸に据えながら、「知の再編」も先導してきました。

SFC 研究所は、その SFC における教育・研究活動と、産官学および国内外の関連活動との双方向の協調関係を育みながら諸科学協調の立場から先端的研究を行い、社会の発展に寄与することを目的としています。学問を超領域に捉え、未来を切り拓く「問題発見・解決」を中軸に据えながら、「知の再編」を先導するという、21世紀の先端研究をリードする研究の拠点として、産官学金民の多彩な訪問研究者とともにプロジェクトを推進しています。三条市と JICA との連携においては、「社会イノベーション・ラボ」が中心となり、助言・協力体制を構築します。

【参考4：「地域おこし研究員」について】

「地域おこし研究員」とは、SFC 研究所「社会イノベーション・ラボ」と、長島町（鹿児島県）・神石高原町（広島県）・三条市（新潟県）・釜石市（岩手県）・鹿児島相互信用金庫（鹿児島県）・大山町（鳥取県）・能代市（秋田県）・大崎町（鹿児島県）・東川町（北海道）・花巻市（岩手県）・邑南町（島根県）・壱岐市（長崎県）・大刀洗町（福岡県）・富士吉田市（山梨県）等が共同で提唱・検討・推進をしているものです。SFC と連携する自治体・組織が、総務省「地域おこし協力隊」「地域活性化企業人」等の制度や、独自制度・職員派遣制度等を活用し、地域に在住しながら、地域の現場で実践的な研究活動を行う SFC の大学院生等を対象に、自治体・企業・団体の選考により任用や任命されるものです（自治体等の選考や任命と、大学院の入学試験は連動しません）。

「地域おこし研究員」は、SFC からの遠隔と対面での研究指導・支援のもと、地域に新機軸を実現するテーマを設定して活動するもので、地方創生の実学を推進しながら、地域が抱える課題を、多様な主体の協働や連携を実現することで、共に解決することを目指します。SFC では、大学院政策・メディア研究科（社会イノベーターコース）にて、遠隔と対面の助言や研究指導を行い、実践的な研究成果を達成できるように支援します。

「地域おこし研究員」は、2017年10月より活動を開始し、これまで、全国各地で24名が任用・任命され、活動をしてきました。そのうち、三条市では2名が活動してきております。

（参考：地域おこし研究員 Web サイト <https://si.sfc.keio.ac.jp/si-researcher/>）

【参考5：「JICA 地域おこし研究員プログラム」について】

「JICA 地域おこし研究員プログラム」は、SFC 研究所「社会イノベーション・ラボ」が JICA と共同で研究開発をしているもので、「開発途上国での国際協力活動」と「日本国内の地域おこし活動」の相乗効果のある研究開発や実践に挑戦する方への支援プログラムとして構想・提案されたものです。本連携協定のもとで、2024年8月より、全国で初めて三条市にて推進しますが、その経験を活かして、全国各地での展開を検討していきます。

三条市におけるプログラムでは、本連携協定のもとで、それぞれの制度や枠組み、強みを活かして、また密接な連携のもとで、相互に協力して活動していきます。具体的には、三条市は、三条市に在住しながら、その公益に資する地域おこし活動と国際協力活動の相乗効果のある実践に挑戦する「三条市地域おこし研究員」を公募・選考の上、任用する予定です。JICA は、JICA 海外協力隊（連携派遣）の枠組み等のもとで地域おこし研究員の経験者等を JICA 海外協力隊として派遣することや、JICA 海外協力隊の経験者が地域おこし研究員として活動することへの支援・協力をを行う予定です。SFC 研究所「社会イノベーション・ラボ」は、同プログラムを監修し、また地域おこし研究員が挑戦する研究開発への助言・支援を行います。

なお、三条市地域おこし研究員、JICA 海外協力隊は、それぞれの制度や責任の下で公募・選考・任用等を行うものであり、連携協定によるプログラムの通称として「三条市 JICA 地域おこし研究員」としています。また、三条市地域おこし研究員は1年以上の活動期間、JICA 海外協力隊は原則1年間の派遣を想定しており、それぞれの制度の下で、報償費や活動費、渡航費・手当等が提供されるものとなりますが、制度上、2つの活動期間を重複させることはできません。

今回の連携プログラムにおける海外での活動は、まずはガーナ共和国におけるコミュニティ開発分野を想定していますが、詳細等は説明会でご確認下さい。

【参考6：既存案件の紹介「慶應義塾大学と JICA 海外協力隊派遣のための連携に関する覚書」について】

JICA と SFC 研究所は 2023 年 7 月 25 日、ガーナ共和国ダニエル・オカイテーイ臨時代理大使臨席のもと、慶應義塾大学と JICA 海外協力隊派遣のための連携に関する覚書を締結しました。本連携では、2024 年から 3 年間、SFC 研究所「ベースボール・ラボ」が、体育会野球部員を中心としたラボの関係者を夏休み時期に毎年 10 名程度ガーナ共和国に派遣し、青少年への野球の指導を通じて総合的な人づくりを目指します。

日本の野球の伝統である「規律」「尊重」「正義」といったスポーツマンシップを育む人づくりをアフリカに展開している一般財団法人アフリカ野球・ソフト振興機構（J-ABS/ジェイ・エイブス、代表理事：友成晋也）が有する「ベースボーラーシップ™教育メソッド」を活用することにより、現地コーチ陣と海外協力隊員が協力して指導することで、青少年の野球の技術向上とともに社会情動的スキルの向上を図り、ガーナ社会の発展に貢献します。

なお、SFC 研究所は、ガーナ大学と連携して「JICA ボランティアが実施するベースボーラーシップ教育がもたらす効果」の研究協力を長期にわたって行う計画です。JICA がグローバルアジェンダに掲げる「スポーツと開発」分野の長期的な効果測定は先駆的な試みであり、野球が人材育成にどのような成果をあげるのかが注目されます。

<連携協定に関する問合せ>

- 三条市 市民部地域経営課（担当：山屋）
電話：0256-34-5646 E-Mail：chiikikeiei@city.sanjo.niigata.jp
- 国際協力機構 青年海外協力隊事務局 参加促進課
E-Mail：jvtpg_gs@jica.go.jp
- 慶應義塾大学 SFC 研究所 社会イノベーション・ラボ（担当：菅井・松橋）
電話：03-4590-0444 E-Mail：si-lab@sfc.keio.ac.jp

<JICA 地域おこし研究員、地域おこし研究員に関する問合せ>

- 慶應義塾大学 SFC 研究所 社会イノベーション・ラボ（担当：菅井・松橋）
電話：03-4590-0444 E-Mail：si-lab@sfc.keio.ac.jp

（配信元：慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当）

E-Mail：kri-pr@sfc.keio.ac.jp